

## 第3回松山市総合教育会議 会議録

### 【開会】

### 【市長挨拶】

#### (野志市長)

- ・ 昨年から開催している本会議において、松山らしい特色ある教育をはじめ、小・中学校のエアコン整備などについて意見交換し、大変有意義であった。
- ・ あらゆる場面で委員の皆様方と意思疎通を図り、連携を密にして教育行政に臨む。
- ・ 教育のあり方や課題などについて、忌憚のない意見交換をしたい。

### 【議題(1) ①愛媛国体の観戦と応援について】

#### (野志市長)

- ・ えひめ国体で14競技、全国障害者スポーツ大会の6競技が本市で開催される。
- ・ 小中学生が作成した各都道府県の「応援のぼり旗」が選手等に好評である。
- ・ 松山らしいおもてなしを通じて選手等を歓迎したい。
- ・ アスリートを目の当たりにする国体は、子どもに夢を与える絶好の機会。
- ・ 障害者スポーツ大会は、障がいへの理解を深めることが開催目的。
- ・ 小中学生と教員に、できるだけ観戦してもらいたい。
- ・ 来松された他県選手の応援もお願いしたいところ。
- ・ 自分たちが作成した応援のぼり旗を見るチャンス。
- ・ 観戦に半日程度を費やす、移動手段や予算がない、休日の観戦等は学校活動ではない、など問題があるが、半世紀に一度の国体の意義を酌んでお力添えを。

#### (一色委員)

- ・ 昭和28年、四国国体開会式で式典演技に出場した当時のことが記憶に新しい。
- ・ 国体に関わることは、一生に一度の貴重な経験なので、良い思い出になる。
- ・ できる限り多くの子どもに経験させてあげたい。

#### (野志市長)

- ・ それだけ長い間、記憶にとどめていらっしゃるということは、国体に関わることは良い機会なんだという証だと思う。

#### (牛山委員)

- ・ えひめ国体開会式における演技を担当している。
- ・ 競技以外にも、開会式や閉会式に約1,800人の子どもが関わることになる。

- ・長崎や和歌山を視察したところ、開会式の選手入場の際に、スタンドの小学生が横断幕を掲げ、大声で「愛媛県がんばれ」などとエールを送っていた。
- ・これを見た時に、これが国体の意義なんだ、と感じた。
- ・他県を応援する経験、また、来県への感謝を行動で表す、こういう体験をした子どもは他者への眼差しが変わってくると思う。

**(野志市長)**

- ・生の現場の状況を教えていただけてありがたい。

**(豊田委員)**

- ・子どもだけでなく大人にとっても良い経験となる。
- ・半日程度の時間を要する点が問題点だと市長がおっしゃったが、これは全く問題にならない。
- ・遠足や総合的な学習、キャリア教育の時間を使うことができる。
- ・努力するアスリートを見ることで、将来、こういう大会に出場したいという動機づけや夢を持つことができる。
- ・障がいに対する理解を深めるだけでなく、障がいを克服するため一生懸命がんばっている姿を見ることは非常に素晴らしい機会になる。
- ・テレビ観戦では味わえないことがあると思う。
- ・休日は親と一緒に観戦するよう促してはどうか。
- ・応援メッセージを書いたうちわを、駅や控室に置いてはどうか。お金をかけなくてもできる松山らしいおもてなしである。

**(野志市長)**

- ・家族で国体を観戦し、スポーツや障がいのことを話し合うのは良いことだと思う。

**(松本委員)**

- ・今回の国体は、活かすすばらしい教材をいただいたと認識している。
- ・子どもたちが良い方に変ったな、というのが目標である。
- ・次の世代にえひめ国体のことを語り継ぐには、国体に関わるのが重要である。
- ・応援のうちわ、寄せ書き、俳句でもいい。子どもが作ったものが会場に飾られていると親や祖父母も足を運ぶ。

**(藤田教育長)**

- ・協力するというよりも、参加することが大事だと考えている。
- ・積極的な支援は当然やっぺいこうと考えている。
- ・授業時間の確保やカリキュラムの見直しが必要なため、早めに学校と協議を。

**(牛山委員)**

- ・国体関係者として、今の言葉はありがたい。
- ・人によって国体に対する考え方に温度差がある。
- ・スタッフ用の紙コップにまで応援メッセージを書いた先催市がある。

**(豊田委員)**

- ・応援を学校に義務付け、嫌々させると子どもは心を込めた応援ができない。
- ・応援する趣旨を先生方に説明し、子どもたちが応援を心待ちにできるよう、丁寧な事前指導が必要。
- ・観戦と応援で何を学んだのか、どう活かしていくのか振り返る事後指導も重要。
- ・家庭との連携も重要である。
- ・早めに学校と協議を始めてもらいたい。
- ・国体の影響で、総体や新人戦などの会場や日程の変更を余儀なくされる。できるだけ悪影響ないように配慮してほしい。

**(野志市長)**

- ・それぞれの専門家から良い意見をいただいた。
- ・国体が一過性のものに終わってしまうともったいない。
- ・それぞれの地域にスポーツが広がる機会になれば良いと思っていた。
- ・松本委員さんのお話から、子どもが変わる機会にもなる、と気付いた。
- ・豊田委員さんがおっしゃった、事前や事後指導のあり方も重要。
- ・市と連携し、前向きに取り組んでいただきたい。

**【議題(1)②ふるさと松山学の発展について】**

**(藤田教育長)**

- ・平成23年に「ふるさと松山学」の活用がはじまって5年経過。
- ・松山らしい特色ある取り組みで注目されている。
- ・新設した教育研修センターで取り組むには最適の教材である。
- ・新たに取り上げたい偉人や先人がおり、新冊子を作製したい。
- ・家庭でも話題になるよう普及させたい。
- ・全国に情報発信したい。
- ・現行の冊子は著作権等から販売不可である。
- ・市販化が可能か研究したい。
- ・収益を児童生徒に還元したい。
- ・多額の経費がかかるわけではない。
- ・2年後の10月末には完成したいと考えている。

- ・事業着手に市長の理解を求める。
- ・編集する教員に負荷がかかるが、教員が関わることで子どもへ興味や関心が伝わりやすい。

#### (一色委員)

- ・良くできた教材である。こういう冊子が本屋で入手できないものか。
- ・嘉義大学を訪問した際、近藤兵太郎さんが顕彰されている模様を見て、松山出身であることを誇らしく感じた。こういう先人が現行の冊子に掲載されていないので善処を。

#### (松本委員)

- ・各学校を訪問すると良い所が良く分かるが、子どもたちにはその自覚がない。
- ・これと同じことで、松山に住んでいるからこそ気付かないことがある。
- ・松山市の良いことを情報発信してもらいたい。

#### (野志市長)

- ・うちの町には何にもない、という人がいる。
- ・確かに都会ほど派手ではないが、松山には良いことがいっぱいある。
- ・皆さんと一緒に磨いていきたい気持ちで、たからみがきのまちづくりを提唱している。
- ・住んでいる人にこそ愛着や誇りを持ってもらいたい。
- ・意識を持ってもらうには、高校3年生までが勝負だと思っている。
- ・そういう意味で、ふるさと松山学の取り組みに感謝している。

#### (牛山委員)

- ・愛媛大学の学生へフィールドミュージアム構想など、地域のことを解説した冊子を提供したところ好評であった。
- ・軽い読み物という感じの冊子が良いと思う。
- ・大学との連携など、教育研修センターの評判は良いし、今後も期待している。

#### (豊田委員)

- ・冊子のあとがきに、地域の歴史や文化を知ることから始め、前向きに生きる気持ちなど、先人が実践した生き方を自分自身の態度で伝えることが大事だとある。
- ・日本中の人々が来てみたい、住んでみたいという松山にするために、私たちができることがたくさんありそうです、と結んでいる。
- ・そういうコンセプトでこの冊子を作製した。
- ・道徳が教科化され、この冊子を使いにくくなった。
- ・授業での使い方をアドバイスできるのは教育研修センターである。
- ・新冊子を作成する際には、掲載すべき先人を網羅するよう注意が必要。

**(野志市長)**

- ・基準作りが難しいのではないかと。

**(藤田教育長)**

- ・全員を掲載するのは難しく、基準の置き方も難しい。
- ・市販化の是非、活用方法によって基準が変わってくると思う。

**(豊田委員)**

- ・子ども用の教材だから転載を許された資料がある。
- ・市販を前提にすると使えない写真があり、イラストで代用しなければならない。
- ・子ども用の冊子にはイラストの方が良いかもしれない。
- ・編集には現職の先生だけでなく、教員OBの力を活用してもらいたい。

**(牛山委員)**

- ・掲載する先人は、文化や地域とか、いろんなジャンルからまんべんなく取り上げてほしい。

**(野志市長)**

- ・スマホやパソコンで記事を読むことが一般的になっている。
- ・これらの資料は大人にとっても読みやすいものだと思う。
- ・新作の作成が委員の要望だと思うが、私も同感である。
- ・これまでの本会議で提案いただいたが、広報紙にふるさと松山学の記事が連載されるようになった。
- ・公民館活動として取り上げていただけると、学校と地域を結ぶツールになる。
- ・俳都松山を宣言している松山市なので、俳句にも力を入れてほしい。

**(藤田教育長)**

- ・既存の冊子は市販化が難しい。
- ・現在検討させている。

**(野志市長)**

- ・教育委員の皆さんとの有意義な議論ができ、感謝申し上げる。

**【閉会あいさつ】**

**(藤田委員長)**

- ・忌憚のない意見交換ができたと思っている。
- ・えひめ国体に関する点は、皆意見が一致しており学校に働きかけたい。

- ・ふるさと松山学については、これから市長部局と精査をして、実現を目指す。
- ・地域の民意を反映する首長との連携が重要である。

**【閉会】**